

農業技術センターニュース

目 次					
	オオバの農薬登録促進	…1		問題雑草に効果の高い水稲用除草剤の新成分	…4
	炭酸ガス施用条件下における促成ナスの 養分吸収特性	…2		既存製茶ラインを利用した深蒸し茶の製造	…5
	促成ナスの炭酸ガス施用ハウスにおける 加湿制御の効果	…3		「土佐文旦」の省力受粉技術の検討	…6

オオバの農薬登録促進

表1 農薬登録試験の薬剤数（平成23年～）

対象病虫害	試験薬剤数
さび病	2※
マデイラコナカイガラムシ	1
ハダニ類	2
ハスモンヨトウ	1
モトジロアザミウマ	1

※うち1剤は斑点病も対象病害とする

表2 農薬登録適用拡大薬剤（平成26年12月時点）

対象病虫害	薬剤名
さび病、斑点病	アミスター 20フロアブル
ハスモンヨトウ	プレバソンフロアブル5
マデイラコナカイガラムシ	スタークル（アルバリン）粒剤

オオバは本県基幹品目の1つですが、全国的に生産量の少ないマイナー作物であるため、病虫害防除に使用できる登録農薬が少ない状況にあります。そのため、県では作物残留試験など農薬登録に必要な試験を実施し、農薬の登録適用拡大を図っています。

オオバの主要病虫害である、さび病、斑点病、マデイラコナカイガラムシ、ハダニ類、ハスモンヨトウ、モトジロアザミウマを対象病虫害として7薬剤の農薬登録試験を実施しました（表1）。オオバは、ほぼ毎日収穫することから、登録時の使用時期を「収穫前日まで」または「収穫3日前まで」とするように試験計画を立てました。この計画に沿って各薬剤とも薬効・薬害試験、作物残留試験を

病理、昆虫担当と協力して実施し、全ての薬剤で農薬登録申請に必要なデータを得ました。

このデータをもとに、各農薬メーカーが申請を行った結果、平成26年12月時点でさび病、斑点病の防除薬剤としてアミスター 20フロアブル、ハスモンヨトウの防除薬剤としてプレバソンフロアブル5が葉茎散布で、マデイラコナカイガラムシの防除薬剤としてスタークル（アルバリン）粒剤が定植時植穴土壌混和で、それぞれオオバに登録適用拡大となりました（表2）。

農業技術センターでは、今後も生産現場のニーズが高く、安心して使用できる農薬の登録促進に取り組んでいきます。

（農薬管理担当 清遠亜沙子 088-863-4915）